



鬼が地域へ



親子3代で修正鬼会に参加



左から父の段題紀光さん、息子の康介君、文殊仙寺副住職 秋吉文暢さん、息子の隆介君、正幸さん

一番鬼の一行がタイレシの段題正幸さんの家を訪れたところ、息子の康介君と隆介君、父の紀光さんが出迎えました。康介君と隆介君は、盃の儀の給仕役として参加。父の紀光さんも、院主がタイアゲを見る際の松明持ちで参加しました。

正幸さんは、「自分が子どもの頃、修正鬼会という独特の雰囲気のものに興味を持ち、早くタイレシになりたいと思っていました。息子たちが、昔の自分と同じように興味を持ち、参加したいと言ってくれています。息子たちがタイレシになる頃まで、しっかりと存続していきたい」と話していました。

地区に飛び出していった鬼が、午前4時過ぎ寺に帰って来て本堂で暴れまわります。タイレシによって動きを封じられた鬼に、院主が鬼鎮めの餅をくわえさせると、鬼の魂が鎮められて成仏の谷に静寂が戻りました。



11月13日
修正鬼会に使う衣装や
道具の確認



11月1日
荒鬼やタイレシなどが
使うわらじ作り

保存会の 皆さんの 準備の様子



2月19日
お祭りで使用する道具の準備



2月18日
こしょう餅などのお餅作り



2月11日
大松明作り



境内で踊る鬼とタイレシ



垢離取りをして身を清めたタイレシ

いよいよ迎えた本番の様子



松明で参拝者に加持をする鬼



盃の儀の様子